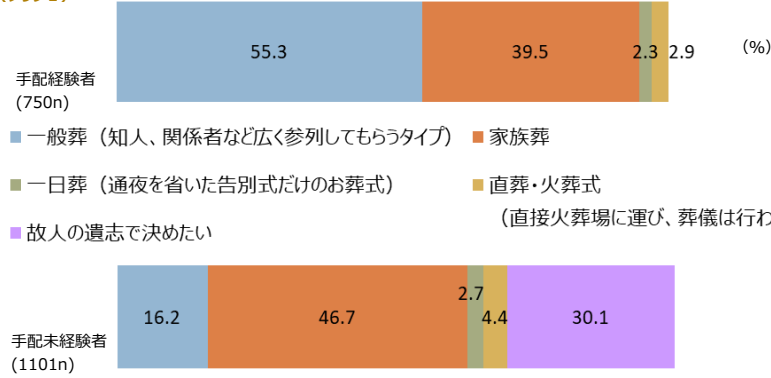


01 Woman's Trend

近親者の葬儀を手配したことがある人と未経験者に聞いた、最近の葬儀事情

家族だけで静かに見送りたいが、現実には…後悔ばかり

◆近親者の葬儀手配経験者と未経験者、実際の葬儀形式VS希望する葬儀形式 (グラフ1)



近年、葬儀・葬祭事情に変化を感じることはないだろうか。故人の置かれた立場などにもよるが、特に知人の家族の葬儀に参列する機会が減っている。そこで、今回は葬儀についてのアンケートを実施した。

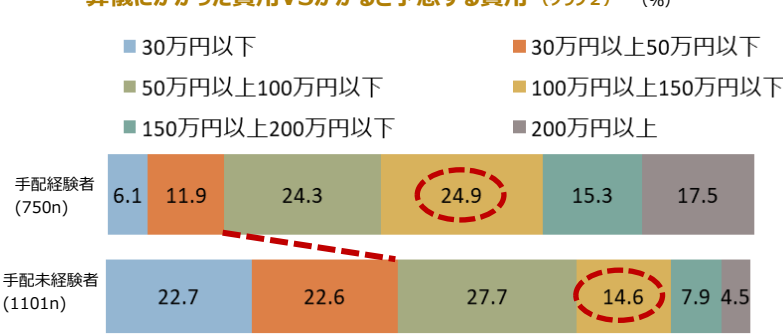
葬儀形式、費用、いずれも希望と現実には開きが

まず、近親者の葬儀手配経験がある人に執り行った葬儀の形式を聞いたところ、一般葬が55.3%と半数超だが、家族葬も39.5%と4割近い。一方、葬儀手配の経験がない人が近親者の葬儀をどんな形式で行いたいと考えているかでは、家族葬は46.7%と半数に迫る勢い。一般葬は1割台とぐっと少なくなる(グラフ1)。

では、費用はどうだろう。手配経験者では実際にかかった費用は50万円～150万円がボリュームゾーンで、6割は「予想通りだった」としているが、「予想より高くなった」は3割と少なくはない。これに対し、手配未経験者が想定する葬儀費用は、手配経験者では18.0%と2割を切っている50万円以下が45.3%。予想と実態には大きな差がある(グラフ2、3)。

2019.8.29～9.2 リビングWeb・あふふあふWebでのWeb調査 集計数：1851人 年代：20代以下7.6% 30代21.3% 40代28.4% 50代22.9% 60代以上19.8% (平均年齢：47.7歳) /データは小数点2位以下四捨五入

◆近親者の葬儀手配経験者と未経験者、葬儀にかかった費用VSかかると予想する費用 (グラフ2) (%)



葬儀手配経験者が回答した葬儀形式や費用のデータには地域性が色濃く表れる。一般葬は中部地方が全体に比較して約20ポイント、家族葬は近畿地方が全体に比較して約10ポイント高い。また費用は、中部地方、九州地方が高い傾向にある。香典を受け取るかどうかは、家族葬が多いせいか近畿地方の「辞退した」が、全体に比較して約20ポイントも高くなっている。

親の葬儀、「故人の遺志を尊重したいが希望を聞いていなかった」は6割

葬儀手配未経験者の3割が葬儀形式は「故人の遺志で決めたい」としているが、経験者に聞くと「故人の遺志で決めたい」は12.7%。親の葬儀について「生前に親の希望を聞いていたか」は「まったく聞いていなかった」が6割(グラフ4)。ここでも希望や想定通りにはいかない現実が見えてくる。

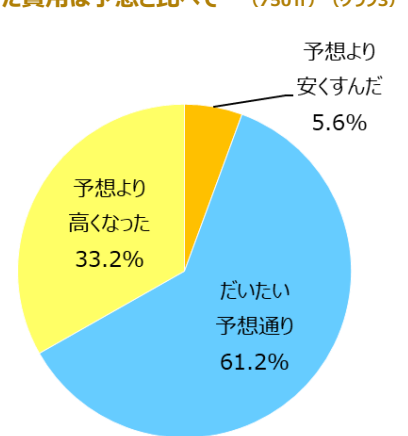
「手配した葬儀について反省や後悔すること」をフリーアンサーで聞いたところ、寄せられた声は336件。他の調査と比較しても、いろいろな思いを抱えている人が多い。主な傾向は4つ。①亡くなったことを誰に(どの関係まで)知らせればよいかわからなくて困った②遺影、棺に入れる品、着

せる服などもっと吟味したかった③家族葬だったのに思ったより費用が高額、規模が大きくなってしまった④葬儀社の言いなりになってしまった。初めての経験だったり憔悴している状況下、頼りになるのはプロの葬儀社。事前の比較検討をしにくい業種ではあるが、家族だけで静かに見送りたいという傾向が強まる中、後悔を生まないためにも、葬祭業には高齢者を抱える家族への上手なアプローチ、情報発信が求められている。

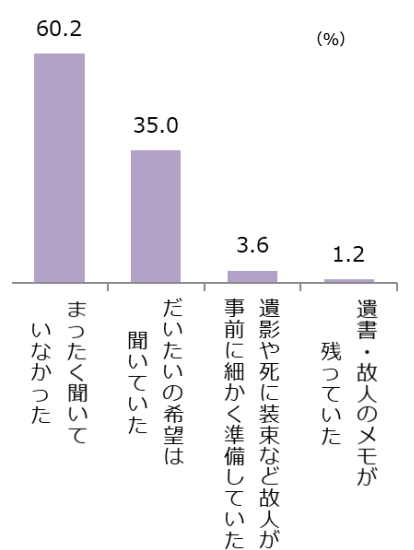
フリーアンサーから抜粋

- ◆家族葬が故人の遺志だったが、声をかけなかった遠い親戚、ご近所からクレーム。もう少し故人の付き合いを知っておき声がけておけばよかった(62歳)
- ◆葬儀屋さんとの打合わせ、放心状態だったので、お花とかがだんだんランクアップして高くなった。お返しが大変なので香典も辞退すればよかった。初めてだったので後悔ばかり(52歳)
- ◆葬儀社のいいなりになり不要な費用がたくさんあった。家族葬で一日葬なのにものすごく費用が高くなった(52歳)
- ◆もっと事前準備すべきだった。葬儀の話は禁忌感があって身内と話すのは躊躇われる。気軽に相談できるところがほしいと感じた(25歳)

◆近親者の葬儀手配経験者、実際にかかった費用は予想と比べて… (750n) (グラフ3)



◆親の葬儀手配経験者、生前に親の希望を聞いていたか (668n) (グラフ4)



葬儀・お葬式についての調査の詳細データはくらしHOWサイト「自主調査レポート」に掲載中!

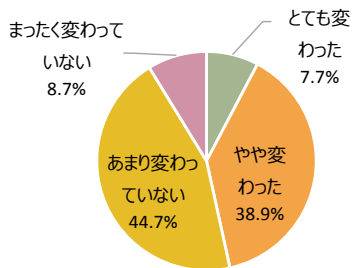
02 40's-60's Real

詳細レポートはくらしHOWサイト「40's～60's マーケット研究室」で

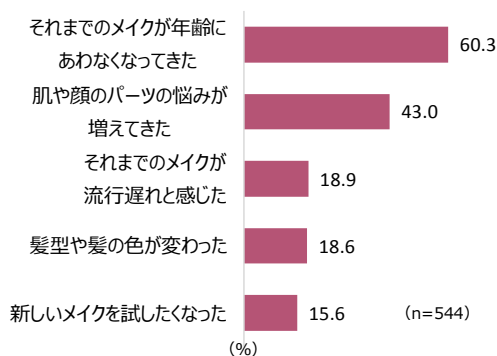
【ミドルエイジのメイク事情】

40代後半はメイクチェンジのピーク 口紅やアイシャドウの色、眉の形を変える

【5年前とメイクが変わったか】



【5年前とメイクが変わったきっかけ】 (上位項目抜粋)



2019.8.22～8.30 Webアンケート調査 集計数:1307
働き方：フルタイムワーク34.0%、無職32.0%、パート・アルバイト28.0%、自営6.0%

40代以上の女性で、メイクが5年前と比べて「とても変わった」「やや変わった」という人は46.6% (グラフ上)。特に40代後半は51.0%と多く、メイクチェンジのピークだ。そのきっかけを聞いてみると、「それまでのメイクが年齢にあわなくなってきた」「肌や顔のパーツの悩みが増えてきた」が上位で、加齢の要因が大きい(グラフ下)。

5年前と変えたという回答が多いのは、「口紅のカラー」50.0%、「眉の形」45.2%、「アイシャドウのカラー」44.3%、「コンシーラーを使うようになった」40.4%。逆に、5年前とメイク方法が変化していないと回答した人が最も少ないのは「下地作り」で10.7%。つまり、何かしらの変化があった人が多いパーツといえる。

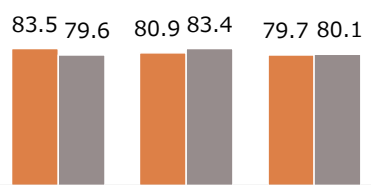
メイクアップアーティストから個別にメイクアドバイスが受けられる機会があれば体験してみたい人は約7割。フルメイクのアドバイスを受けるなら料金はいくら?と尋ねると、「有料なら受けたくない」人が28.9%いるものの、「3000円未満」なら受けたいという人が43.2%。「3000円～5000円未満」という人も24.2%いる。

03 Decennial Data

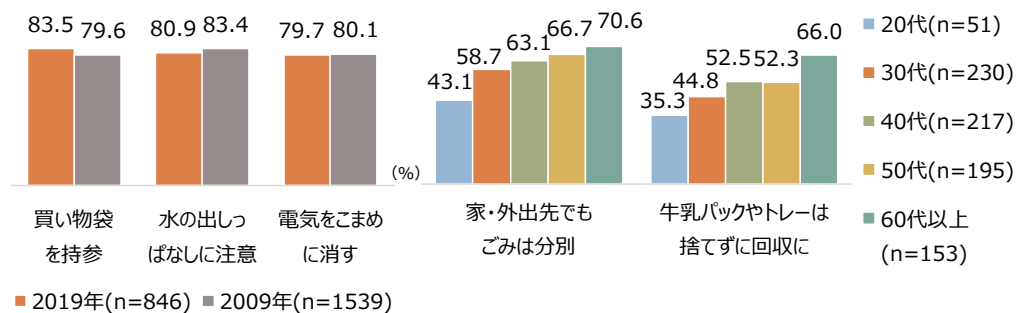
環境問題に関するデータはくらしHOWサイト「自主調査レポート」に掲載中!

環境を意識して日頃していることのトップは「買い物袋を持参」
ごみ分別、若い年代ほどハードルが高い?

【環境を意識して、日頃していること トップ3】



【年代別・ごみ分別を日頃しているか】



既婚女性に、関心のある環境問題を聞いたところ「地球温暖化」85.6%がトップ。G20大阪サミットで議題になり、ニュースなどで取り上げられることも多い「プラスチックごみによる汚染」64.3%への関心も高い。環境を意識して行っている率が最も高いのは「買い物袋を持参」(グラフ左)。僅差で、節約のために意識する人も多い「水の出しっぱなしに注意」「電気をこまめに消す」が続く。10年前の調査と比較しても、この3つが上位で、似たようなポイント数だった。

10年前より目立ってポイントが下がったのは、「家・外出先でもごみは分別」62.9% (2009年は70.8%)、「牛乳パックやトレーは捨てずに回収に」51.8% (2009年は68.5%)。この2つは、上の年代ほど実践している率が高いのも特徴(グラフ右)。なかなかできない理由をフリーアンサーで聞くと、牛乳パックやトレーは「洗うのが面倒」「保管場所に困る」といった声のほか、「仕事をしているので、なかなか回収場所まで持っていくけない」という意見も見られた。

調査方法 / Webアンケート 調査対象 / 「リビングWeb」「シティリビングWeb」「あふふあふWeb」ユーザー [回答者プロフィール] 働き方:無職44.8%、フルタイムワーク26.2%、パート・アルバイト25.8%、その他3.2% 調査期間 / 2019.7.31～8.4 有効回答数 / 既婚女性846人 (平均年齢47.0歳)